

祈りについてさらに学ぶ

活動A

サタンが祈らないよう誘惑する一方で、天の御父はわたしたちが祈ることを望んでおられる理由には、どのようなものがあるでしょうか。

- わたしたちが祈らないように、サタンはどのように誘惑しますか。

サタンが「祈ってはならないと〔わたしたち〕に教える」方法の一つは、わたしたちには罪があるためもはや祈る価値がないというそを信じさせようとすることです。

以下のことを行い、サタンはわたしたちがどのような祝福を受けないようにじゃましようとするのか、深く考えてください：

祈りについてしばらく研究しましょう。『聖句ガイド』で祈りについて調べたり、「福音のテーマ」を検索したり、祈りについて話されている総大会の説教を探すとよいでしょう。研究しながら、祈りがもたらす祝福を見つけてください。また、あなたがこれまでの生活で、祈ることから経験した祝福を考えてみるのもよいでしょう。研究したことと自分の経験に基づいて、なぜ天の御父はわたしたちが祈ることを望まれ、なぜサタンは祈らないよう誘惑するのかについて深く考えてください。

ChurchofJesusChrist.org

あなたが学んだ祈りについての真理を、少なくとも二つ書き留めてください。天の御父はわたしたちが祈ることを望んでおられ、サタンは祈らないよう誘惑すると思う理由を含めてください。

活動B

常に祈る、とはどういう意味でしょうか。

「気を落とさずに常に祈らなければならない」（2ニーファイ32：9）という語句に、印をつけるとよいでしょう。

アルマ34：21、27を読み、常に祈るとはどのようなことを意味するのかについての洞察を見つけてください。

- なぜ「朝も昼も晩も」（アルマ34：21）祈ることが祝福になるのでしょうか。
- どうすれば、祈っていないときでも、神に心を向けることができるのでしょうか。

十二使徒定員会のデビッド・A・ベドナー長老は、常に祈るとは何を意味するのかについての一例を、次のように挙げています：



「朝の祈りの中で、……天の御父に相談する必要があるかもしれません。……

そして、一日中、助けと導きを求めて心の中で祈り続けます。……

一日の終わりに、再びひざまずいて御父に報告をします。その日の出来事を振り返り、受けた祝福や助けに心から感謝を述べます。悔い改め、翌日よりよい行動を取り、よりよい人になる方法を、主の御霊の助けを受けて見つけます。だからこそ、夜の祈りは朝の祈りを土台としたものであり、朝の祈りの続きなのです。また、夜の祈りは翌朝の意義深い祈りへの備えでもあります。」（デビッド・A・ベドナー「常に祈りなさい」『リアホナ』2008年11月号、41-42）

常に祈ることの意味を自分自身の言葉で書いてください。

活動C

天の御父はどのように、わたしたちの努力を神聖にして、わたしたちに福利をもたらすものにしてくださるのでしょうか。

ニーファイは、「主があなたがたの行うことを神聖にしてくださり、あなたがたの行うことが自分自身に幸いをもたらすものとなるように、キリストの名によってまず御父に祈〔りなさい〕」（2ニーファイ32：9）と教えました。神聖にするとは、「聖なるものにする」あるいは「ささげる」という意味です。

神の望まれることをしようと祈り、努力した人を、天の御父が祝福された例を、少なくとも一つ考えてください。個人の経験、現代の例、聖文で見つけた話のどれでもかまいません（必要なら、『聖句ガイド』を使って例を探してください）。

その例と、天の御父は御心をわたしたちが成し遂げようと努めるときにいかに祝福を授けてくださるかについて、その例が教えることを書いてください。